



2014～2015年度 ROTARY CLUB OF TOYOKAWA HOI CLUB WEEKLY

やらまいか

例会日/毎週火曜日 12:30 例会場/豊川商工会議所

会長/滝下 勲 幹事/伊藤正幸 会報委員会/河本圭史・大場 篤

事務局/豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内 TEL0533-86-2535 Fax0533-86-8889

HP/<http://toyokawahoi.tank.jp>

クラブテーマ: 和の心と・地元へ奉仕を

本年度第13回 通算1359回 平成26年10月7日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	9/16 修正出席率
		59名	33名	63.5%	97.9%

ゲスト: 語りべ 伊藤等さん 付添い 山本泰史さん 豊川市建設部次長 鈴木高さん ビジター: (なし)

★会長あいさつ

滝下 勲会長



こんにちは。昨日は台風18号がこの地域にも接近し、今年は大きな災害が色々と起きております。

今日は、語りべの伊藤様にお越し頂きまして、海軍工廠の時の話をさせて頂きます。今年の平和祈念式典に出席した時に伊藤様の話を聞かせて頂きまして、一度皆さんにも聞いて頂きたいと思っていましたら、プログラム委員長が企画してくれました。合わせて豊川市平和公園についても建設部の鈴木様にご説明を頂きます。

今朝の新聞にノーベル平和賞「9条」が急浮上という記事が載っていました。ノーベル平和賞に憲法の9条をあげることは、色々問題はあるとは思いますが、やはり戦争の話を聞きますと戦争は絶対にいけないと思います。

以前、テレビで外国の方が、日本そのものを世界遺産にしたらどうかと言っていました。日本と言う国は、本当に犯罪も少なく、人間的に優しい人が多くいるし、東日本大震災の時にも冷静に列を崩さず救援物資を待っている姿を見て、このように国民は世界には無いのではないかと言っていました。言われてみれば、日本にいる時にはしないのに、海外に行った時には、自分の持ち物を常に確認していないといけない状況があります。海外の人から、そのように私たち日本人を見て頂いているかと思うと嬉しく思います。

★幹事報告

伊藤正幸幹事

指名委員会設置について報告
例会臨時変更のお知らせ
ガバナー月信10月号の回覧

★委員会報告

職業奉仕委員会(堀田卓嗣委員長)

10月14日職場例会について

親睦委員会(大場篤副委員長)

11月11～12日秋の行楽について

★新入会員入会式

◎推薦者の紹介

笠原盛泰会員



松林秀佳さんを紹介させて頂きます。後藤コンクリート工業(株)の専務取締役です。松林さんがJCに入会された時に、私が委員

長だった関係で、それ以来お付き合いをさせて頂いております。その時の副理事長が度会さんで、今回2名で推薦させて頂きました。

JC時代には、活発に街づくりの活動に携わっておられました。現在は、豊川ビジョンリサーチに参加されて、非常に多岐にわたって活動をされています。素晴らしい経営者であり、地域を思う一人だと思います。今年50歳ということで、入会されるにも良い時期だと思って推薦しました。皆様に可愛がって頂いて、素晴らしいロータリアンに育てて頂ければと思います。よろしくお祈りいたします。

◎バッジの贈呈

滝下会長からロータリーバッジが贈られました。



◎歓迎のこぼ 波多野四郎 R 情報委員長



こんにちは。松林さん、入会おめでとうございます。

私がお休みしている間に新入会員の方が2名も増えておりま

して、今日で5名ということ。年度始まって3ヶ月で5名の新入会員は、30年クラブにありますが初めてなことです。滝下会長の30周年に向けての会員増強の熱意、そして浅野会員委員長の努力、皆さんの推薦によりまして、このように素晴らしい会員が入会されています。聞くところによると、まだ入会予定者があるということです。いよいよ東三河分区内で会員数が多いクラブの5番目になりそうで、大変嬉しいことです。豊川LCと豊川中LCの合同例会のことが新聞に載っていました。会員増強に取り組み、女性会員を4割以上増やそうと言うスローガンを掲げられておりました。地区の委員会に出席した時にも会員増強の話がありました。当クラブは、まもなく60名ということで大変嬉しいことです。皆さんにお願いしたいこととして、以前はドクターが会員に数名おられました。今はドクターがいませんので、ぜひ紹介を頂きたいと思えます。

今年度の2760地区近藤ガバナーのスローガンは「集まろう、語ろう、楽しもう」です。滝下会長のスローガンは「和の心と 地元を奉仕を」です。ロータリーとは、親睦と奉仕

が基本です。毎週の例会にしっかりと出席をして頂いて、メンバーの顔と名前をまず憶えて頂き、クラブに溶け込んで頂き、親睦を重点において ENJOY・ROTARY をして頂くことをお願いして歓迎のことばとさせていただきます。入会おめでとうございます。

◎新入会員のあいさつ

松林秀佳会員



皆様初めまして。今お話を頂きました「集まろう、語ろう、楽しもう」ですが、語ろうというのは良いのですが、何分にも

集まれるかどうか心配なので、推薦者の方々に相談をしましたら、出来る限りで良いからということでお受けさせていただきました。まだ空気が読めておりませんので、皆様方にとって耳障りなことを言うてしまう未熟な新入会員だということで今日だけはお許しを頂きたいと思えます。

入会しましたからには、真面目に精一杯やらせて頂くつもりでございます。仕事は何かと忙しいですが、時間を見つけて、皆様方と集まって、語らって、楽しみたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

★外部講師の卓話

◎趣旨説明

伊藤正幸幹事

度会プログラム委員長の本日の例会について説明を代読します。

滝下会長が8月7日の豊川市平和祈念



式典に出られて、伊藤様の体験談を聞いて感動されました。海軍工廠の惨劇を経て、平成7年に豊川市は平和都市宣言を行いました。そして今回工廠跡地に平和公園を造る計画があります。伊藤様のお話について、豊川市建設部の鈴木次長さんから平和公園についてのお話をさせていただきます。それではお願い致します。

◎卓話「14の夏 懸命に生きて」

伊藤 等氏

現在 83 歳です。今から 69 年前の私が小学校の高等科を卒業して豊川海軍工廠に入って 4 ヶ月目に 8 月 7 日の爆撃を受けました。その時の話をさせていただきます。



69 年前の昭和 20 年 3 月に国府の国民学校高等科を終了しました。その当時は中学、女学校、専門学校、大学に行っている人たちも、国の法律によって軍需工場で働いていました。小学校の高等科を出て、海軍工廠の工員養成所に入ると、お金を払って学校に行っている人たちが軍需工場で働いているのに、半日、中等教育を受けて、あと半日を豊川海軍工廠の実習をやると言うことで、優遇された仕事ということで工員養成所の 6 期生として入りました。工員養成所の 1 期生は 20 名ぐらいでしたが、6 期生は中部 9 県から 500 名が入りました。工場の上に海軍がつくので、まず初めに上官から海軍魂を教えられました。

8 月 7 日に工場に出所しました。工員養成所は、今の豊川工業高校の場所にありました。そこから連帯を組んで、工場の正門を入ります。その日、正門を入った時には、もうすでに警戒警報が出ていました。本日未明、サイパン島を発進したアメリカの爆撃機 131 機が愛知県の伊良湖岬を目指して西進しているという情報が入り、警戒警報が出ていました。それから直ぐにアメリカの爆撃機が伊良湖岬の前方沖合で方角を変え北進を始めたということで空襲警報になりました。

空襲警報になって、女子の学徒、勤労挺身隊に職場を離れて防空壕に退避しなさいという退避命令が出ました。それから男子の低学年の学徒に退避命令が出ました。私が働いていたのは、火工部第二装填の 1 つの工場です。火工部というところは、林の中に工場があり、1 つの工場が教室を 2 つ並べたぐらいの小さな工場にしてあり、林の中に防空壕が作ってありました。なぜ、そんなに細かくしてあるかと言うと、装填というのは、火薬を詰める作業なのです。だから、一つやられて、全部やられては困るから、たくさん林の中に作ってありました。

私のいた装填工場には、女子の学徒や挺身隊はいましたが、男子はいませんでした。女子が退避してしまうと工場内はガラーンとしていました。電源も止まっていました。上司が来て、「俺はいくつかの装填工場を回らないといけないので、お前は、この工場を見ておれ」言いました。「見ておれ」という事は、爆撃があった時に火がついたら火を消せという事なのです。当時は、軍人及び軍属たるものは、敵に後ろを見せるな、ということを経験では常時言われておりました。軍属でも 1 万 m の高さからアメリカの戦略爆撃機が 3,500 発もの爆弾を落とすのに、防空壕に退避せよという命令は出ないのです。それで、工場を回れと言われて、一人で工場を一回り見渡しました。

これから爆撃が始まるからということで、用を足して来ようと思って、北の工場の隅にあるトイレに入りました。トイレに入ってドアを閉めると同時に、私の工場がドカーンと直撃をくらい、工場が無くなってしまいました。トイレに入っていなかったら爆風をもろに受けて、私はそこで死んでしまったと思います。トイレの壁に包まれていたから、どこも怪我をしませんでした。トイレから出たら、周りは黒煙がもうもうとしていました。右も左も。トイレを出たところに道路があり、道路の向かい側に松林の防空壕があったので、はって道路を渡りました。防空壕を見つけて飛び込みました。飛び込んだら、退避命令で防空壕に入っている人たちでいっぱいでした。見たら女子学徒の 1 年 2 年ぐらいの小さい子たちでした。小さい子たちは、防空頭巾をかぶって、体を丸めて並んで満員の状態でした。女子学徒の頭から天井までが 1 m ぐらいの空間が空いていました。その女の子たちの上を駆け上がって入って行きました。女子の学徒や挺身隊ばかりだったので、退避命令のない私ができるようなことが出来ました。私以外にも防空壕に飛び込んでいた人がいました。

飛び込むと直ぐに近くに爆弾が落ちました。爆弾は 1 万 m の高さから落とすのに、アメリカの爆撃機は 2~3,000 m に下げて落とってきます。それは命中率を高めるために高度を下げて、爆弾を落としてきました。最初、飛行機から放たれた爆弾は、「ザー」「ザー」「ザー」と小さな音が聞こえてくるのです。あのザーザーが大きくなってきたら爆発するなどわかりました。その時間は 3~5 秒ぐらいでした。

「ザーザーザー」「ザーザーザー」「ドカーン」と破裂します。破裂すると、私の下にいる女子の学徒たちが「ギャー」って泣き出しました。「お母さん助けて」「こんなところで死にたくない」「やだー」と防空壕の中で泣き叫びました。そこにいるのがいたたまれなくなるので、早く出ないとと置いていたら爆弾が止まりました。

アメリカの爆撃機は7~8機が1列に並んで爆弾を落として去っていく、次にまた7~8機来て落として去っていく、その間の時間が1分か1分半ぐらいあります。その時間に防空壕を出て、次の防空壕を探すためにはっていました。食糧事情も悪く痩せていましたから、立っていたら爆風で飛ばされてしまうので、はって逃げました。爆弾が直撃して、みんなの体が吹っ飛んでしまっ、電柱や松の木の枝に引っかかった状態になっているのです。私は怖いから低いところ、低いところを探しながら行きました。爆撃を受けて天井が吹っ飛んでしまった防空壕が丸出しになって、そこに生き埋めになっていたのです。わざわざそこに入って行った訳ではないので、這って行ったら、真っ暗なので生き埋めになっているなんてことは全然分かりませんでした。その生き埋めの人たちのところに入って行くので、足を掴まれたり、腕を掴まれたりしました。上では爆弾の「ザー」「ザー」「ザー」という音がするので、ここで掴まれたままでは死んでしまうので、その掴まれたのを払って、次の防空壕に飛び込んで行きました。今でも一番後悔するのは、この時の事です。

次の防空壕に飛び込んだけど、そこにも人がいっぱい、また防空壕から出ました。そして、どの方向に防空壕があるのか探していたら、爆撃で飛んで枝に引っかかった人の体液がほとぼしって、しなびて枝から落ちてくるのです。落ちてきた人は、ワンバウンドしてはっていた私の首に巻きついてきたのです。ヒャーっと言って払って、防空壕目指して飛び込もうとしました。

飛び込む寸前に、女子挺身隊の子だと思われる子が、腕も足も吹っ飛んでしまっ木にもたれかかっている状態でいました。この女の子は、私がさっき木から落ちてきた人を振り払ったのを見ていたように思えました。悪い所を見られてしまったなという気持ちで目を合わせたら、何だか達観したような感じで、私の分まで生きてというような目に見えまし

た。助ける勇気も、助けようにも無くて防空壕に入りました。

そんなことを何回も何回も繰り返しているうちに、30分が経って爆撃が終わりました。爆撃が終わったので、外に出て北門に逃げていきました。北門を出たら、北門から真っ直ぐの所に雑木林がありました。今の千両町の住宅の所です。その雑木林に行く道が、すごい人で混んでいました。何でこんなに人がいるかと思ったら、大学のお兄さんたちが黒帯を引きずってフラフラと歩いていました。一人のお兄さんが、私にぐわあーともたれ掛ってきました。重いなあと思ってみたら、もう眼はうつろでした。私が帯を引きずっていると思って見たのは、小腸だったのです。小腸は空気にふれて5倍ぐらいになっていました。見たことのない私は帯を引きずっているのだと思ったのです。もたれ掛ってきたお兄さんが重いから、近くの木に持たれ掛けさせて「ここで少し休んでいて」と言って離れたら、それでお兄さんの呼吸は切れしました。そんなお兄さんが20人も30人もいました。防空壕に入らずに走って逃げているうちに、みんな爆撃にやられてしまっ、足元が定まらず歩いているお兄さんたちに遭遇をしました。

千両の雑木林に着きました。みんな木の切株のある空き地にたどりついているのですが、みんなポカーンと口を開けていました。それを見て、私はココにいてはいけないと思いました。海軍工廠で教えられたことは、敵に後ろを見せるな、逃亡兵になるな、ということでした。どこにもケガをしていないが、千両の林に逃亡してきた。日頃言われていることは、軍隊では逃亡兵は銃殺と言われていました。それで怖くなって、直ぐに養成所（今の豊川工業高校のあるところ）に戻りました。

養成所は、病院が最初にやられてしまっ、お医者さんも看護婦さんも入院患者はみんな死んでしまったから、私たちのいた寮の2棟が野戦病院（病室）になっていました。グラウンドには、工廠から死体がどんどん運ばれてきていました。そして死体を埋葬する作業に入るのに、防空壕の穴へ上から放り込みます。死体が重くて4人ぐらいでさげるのに、重くて自分も死体と一緒に引き込まれて落ちてしまうのです。落ちてしまったら、深くて今度は出るに出れないのです。防空壕の中にすでに死者が埋めてあるのに、それを踏みつけて踏みつけて防空壕から出て、また次の死

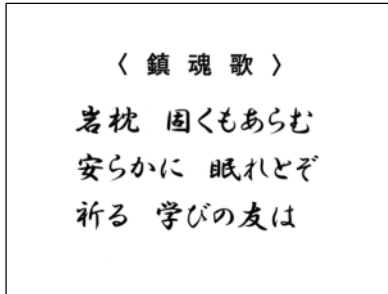
体を運んだのです。

この時のことは、自分は罪を犯したような感じに思っていました。それを自分の胸におさめて、平成7年に豊川市が平和都市宣言をした時から語りべを始めたのです。平成7年からずっと今日まで続けています。最初、小学校や中学校を回る時には、人を踏みつけたとか、蹴ったという言葉はとても言えなかったです。75歳を過ぎた頃から、本当のことを隠してあの世に行ってしまうのかと思って、それから自分のやったことは恥ずかしいことですが、語りべの中で話すようにしました。

木の根っこや岩を枕に折り重なって防空壕で本当に苦しい思いをした後、そして苦しい姿で安らかに永久の眠りについて下さいとお願いしても出来ない事でしょうが、その時代と一緒に生きた私も本当にこれを皆さんに話さなければ、

私も救われないので、どうしてもこの鎮魂歌を唄わせて頂きます。

ご清聴ありがとうございました。



◎卓話「豊川市平和公園について」

豊川市建設部次長 鈴木 高氏

豊川市では、現在豊川海軍工廠跡地に仮称ではありますが、豊川市平和公園の建設に向けた取り組みを行っております。本日は、この公園整備に向けた現在の状況と、今後についてお話をさせていただきます。



豊川海軍工廠の空襲から50年経過しました平成7年8月7日に平和都市宣言を行っております。この宣言では、「戦争の惨禍を防止し、恒久平和を実現することが、私たち市民の願い」であり、「歴史上かつてないほど多くの犠牲者を出した。こうしたことが、なぜ起きたのか、ともに考え、子孫に語り継いでいかなければならない」とあります。

こうした想いのもと、工廠跡地という、まさに惨禍の現場であった場所に、平和公園を

開設することで、戦争の悲惨さと平和の尊さを、市民の皆さん並びに後世に伝えようということが、山脇市長のマニフェストの趣旨であり、平和公園整備の目的となります。

仮称ですが、豊川市平和公園の基本構想を策定するにあたり、市民皆様の意見をお聞きするため、昨年11月に「豊川市平和公園(仮称)整備検討委員会」を設置しております。委員会は、学識経験者の2名に正副委員長をお願いしたほか、各種団体の代表者11名、公募委員2名の合計15名の外部委員で構成して、平成25年11月15日から平成26年3月3日の間に、全5回の委員会を開催し、公園の整備方針を決めるための検討をいただきました。

それでは、基本構想についてご説明いたしますので、お手元の資料「豊川市平和公園(仮称)基本構想」をご覧ください。

※当日配布された資料をご覧ください。

- ① 豊川市平和公園(仮称)を取り巻く現状
- ② 〃 の候補地
- ③ 〃 の基本コンセプトと基本方針
- ④ 〃 のゾーニング
- ⑤ 〃 の整備内容
- ⑥ 〃 の整備スケジュール
- ⑦ 基本計画策定等に向けた課題

豊川市平和公園(仮称)整備の意義について1点目が、「平和を愛する心を育てる」ことです。平和公園では、工廠跡地に残る遺構の保存と活用を図り、工廠跡地という「その場」で、工廠の歴史を次世代に正しく伝えていく必要があります。そうしたことにより、平和を愛する心を育てることに寄与する、豊川市ならではの、豊川海軍工廠ならではの、平和公園の意義があります。そして2点目として、「パイオニア的事業」で、あることです。行政として中立な立場で、戦争や平和について語ることの難しさもあり、行政が戦争関連の遺構を保存・活用して公園化を図る事業は、全国的にもあまり例がありません。遺構の保存と活用の事例として、戦争の歴史を伝えて平和を問いかける公園として、そのパイオニア的事業としての意義も大きいと考えております。豊川市では、関係各位のご協力をいただきながら、平成30年度当初の開園を目指して事業を推進してまいりたいと考えておりますので、宜しく願いいたします。ご清聴ありがとうございました。

会報担当：河本圭史会員・大場 篤会員